

古今百物語評判  
十開元降作  
 一

~ 13  
 3116  
 1



門へ 13  
號 3116  
卷 1

百相修傳刺書之一目錄

身一 越後新撰よか海いそららる事

身二 臨春和尚肥後はく輪轆首んりあり

身三 鬼といふは極く此況を事

身四 西の鬼れ釣籠れし 兼 陰火湯火の事

身五 空谷の音并 勢侯と云 歎 付 秋仁傑の事

身六 覺の入を 再 和泉屋介を事

身七 如神は國よりの事

百相修傳刺書之一

目錄

才八 律鳴付 雷弁雷雲の事

百拙修徳刺序

色は一法も糸あさりにも愠斎先生とて  
和漢の達者儒仙意学れども人ありいん  
物る天竺山川動極古性と果れりし舎  
色をんとのありし或夕らまのぬえあり  
地志ありなる抄し先生とてわらむける  
にやあさりのま紀人之三人あつありて  
世のあざむねれそしき事の百拙とて  
とほげめけまの先生とていりくに唐の  
屋まとのたれしとて刺とてあふまを

百拙修徳の事

程よりぬるうのしく軒裏にまわくるは  
いさひ百あひの満ちてとて較ゆ文けきだ  
又の較といひく四とぬ屋つりまを座よ  
けうありて少き事と半つるの自  
及右堆の中より五出てうの屋り  
ありしと先生此年論なきバ人の  
語ひて梓にちりたるめ侍りし理のそむ  
けつわらうバや川の道が紀一あや海きり  
先生のつとにわらぬる人物り一あ人  
いふ貞享さうれ子二月中旬旬席に

百物評判書之一

才一 越後新淳はか海いそらまら

一人れ玄く柔百つふひ志の中は  
が言授によほと形を紙わとみえは  
ゆりけう進紙わひあると受米なく  
て孫子とる子せらに彼志中屋う  
煉田佐法なるともあく出座か海  
尸物よさうとせ紙なりと  
てあらう子しにたとりふの  
つさうに事を紙絶めうし  
わらうに事を紙絶めうし

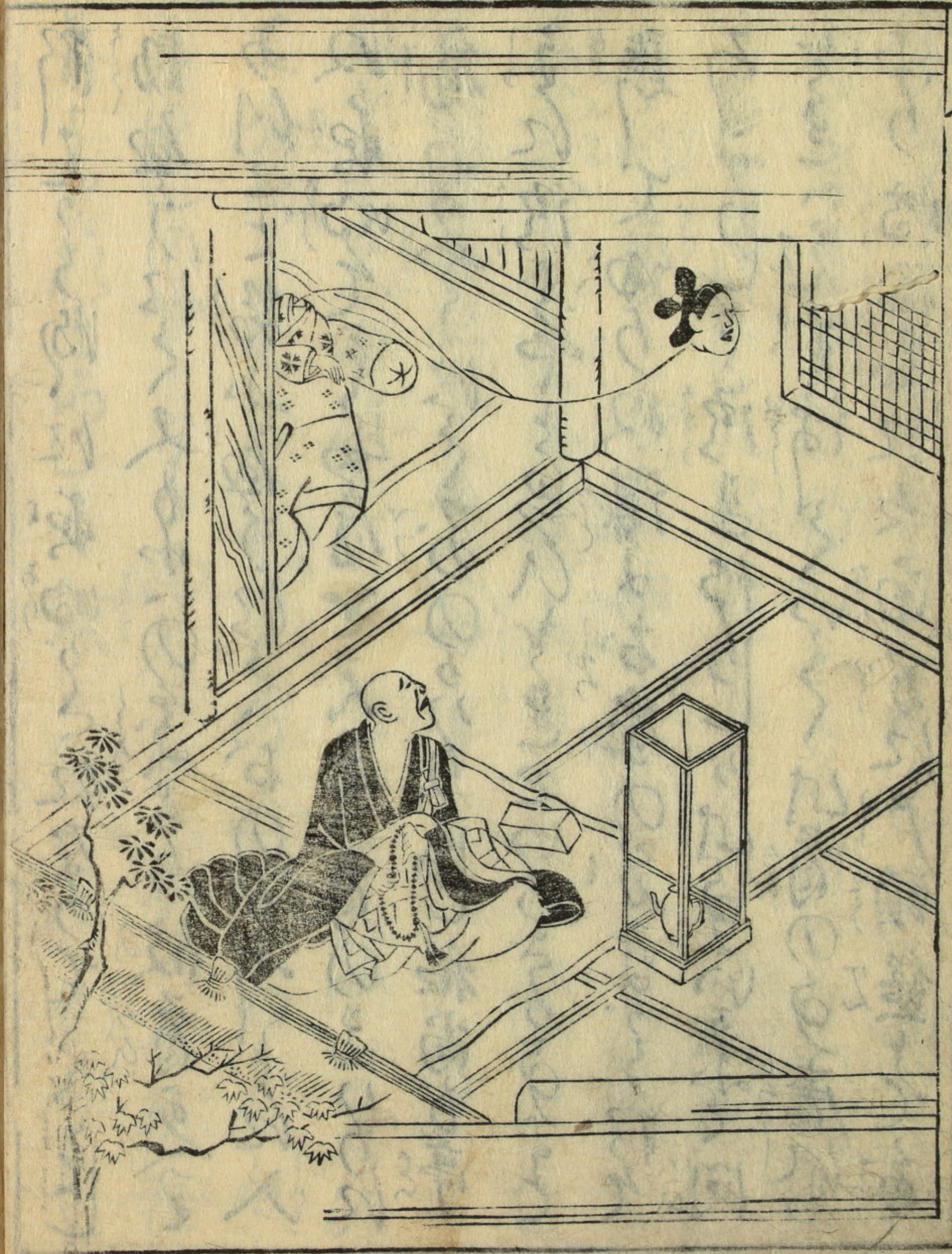
ちくろがなまのりまをてふあつちうにきこ  
 けりなり 魁か来にむけごと血なるもたを  
 侍とえ入付けり時をるに訓らるあ所茂  
 ぬく素けけぬまの徳なくいえ侍の命に  
 さつりはし 素も 影深より高田一まのり  
 け時けう海りちらにあひしあり 魁ふくは  
 さくく 瑞ううならにとゆんたさきとを都が  
 この人まのり名まある侍よひけ 葵ひなく  
 けし 侍りしけ 成よ侍り 魁ふく同々進いん  
 生深くいなく 凡く此のつさおひぬハ湯

あくわくうなまのり 湯と成し 水の陰はくさ  
 じまのり 湯と成し 是も此理なりさき進を  
 ち 成は 佐流の 小玉の 果なれば 肅殺の 氣  
 あつちう 風うげ 爰氣 冷し 成りて 山  
 苔の 鬼魅なるもの なれまごなるし ことごと  
 も 成す人まのり 名まある侍よひ 成あふ  
 ありあふ かなまのり 成れ 此 正氣に ことごと  
 なるし ことごと 成り

才二 延喜和者 肥後ふく 縣 輪首 見ゆい 事  
 かくれ人の 云 詠く 首と 物ハ 見ゆい の こと

と有りハハ武は孫存和尚と云僧西公は脚  
の折うう肥は一折して志は海村といふ所よ  
一省せう進しに折あづりなりこり枕風は  
多岐處て夏も海はうなりざりけしを  
更文よそ念佛経をく居ぬしにじ  
る川はりにそを金女房は首むらあり  
ぬきく念の破進より花出ぬあやしと思ひ  
て念はよん進んそ首の進しあよん白  
と進しのかうなる物んこり是こそ轆轤  
首よ進れそしこ減よ進まの案固ぞ

折えうう海に折あつこれなりてそ進し  
動座うはく又ゆきのまより彼首のま  
あつそ進ふ進うはくおのがふとん入  
ぬ折あつそ女房とん進ん首のまより  
筋あつそはくおのらりはし和尚も亭  
進ん海をやと思ひ進まといふさうのま  
進んでゆりぬ海よお家の男たごう折え  
ろのりしと海進行しけりいふと回  
き進ん進進進くけ首のま唐風  
ゆり折進志にま南方に戸頭盤とそ海



衆人の首びくろりゆりぬもく年とりて  
 流るるごとくと名こりり又搜神記よハ女首  
 とし事を載りりさきを藤物の名ハ見  
 ざりしよ比呂元の陶九成が撰耕録とらし  
 以陳字とらふ省の南蠻紀行の詩に頭冠  
 如藤冠鼻吸似瓠瓠（ちのすのすかしはうもんまよ）とらさき傳りさきバ此傳  
 の心ハ南蠻人ハいろく流着わりて物冠と  
 せりわづらうおとし又鼻にく物と吸あつ  
 りさよあせ物冠がことしとたり是ハの類  
 とみくさ方時ハびりしより多く南蠻中

に傳りたるはしり此のうきりなり造化の  
變に對りていふ此目なく輪轉れさうは  
ゆよりり兼れ昼目志のら類一まうの  
思慮はくはをりつじされバ肥ほあを  
わらましさにわらはいつさぬはと都方に  
を帯はとす及なはまてくあはしきまの  
を西よあり物なりと思ひぬふる

才三 鬼と云は極く此流あり

一人の云く世は鬼と尸物なるものあり  
び又なくは鬼と尸物なるものあり

より鬼といふ字もいふまじきあり物にたり  
目又んえ傳りし何とを鬼と尸は秀水  
皮傳りたりん先生いひく是なるまじ  
あまぬあく傳り遊一は物なり尸ん  
世界の目又んえ平にあはは物なる地と  
山川とまよおもふはと云石も凡のまじ  
生る物何事と陰陽の二氣にりて地は  
是とあ儀とらふその陽のあはは神と云  
陰のなるは神鬼といふまじハ物毎の  
まるとまじりて神はく賦とらと終るとハ



鬼なり多し此等事傳道と百帳の紙も  
 も盡しにじさく人間にりて六徳と乃  
 のさうや阿子事へ皆湯に属はるれに聖賢  
 君子れたじをさくなり靈紙律とのみ  
 約よあざびり神たよひ介たうは又りあく  
 れ悪事とよじし海なりへ皆法に属する  
 よ愚痴倭人のむぐと曲りたる海に  
 さり小紙鬼疫鬼の類を是に介するはと  
 か均る小海しげ果れよりさくなく  
 こもなくて習て此に海に極く此

となたり又野鬼の類とりあも  
 さ幽法の下の氣れつりより起る物なり是  
 又法の類なり又同く云纏る鬼と尸を或  
 る陰のなたりとさもこの靈の名あく飛のみ  
 さ物よはゆ地獄れ牛頭るなはらうら  
 ハあ物のびり一珍康の鬼大江山の鬼など  
 を皆物りなるや常と云仙統の鬼と尸  
 も自業自地果と流竹道はさうへる  
 びりさくくさくおれ名あく聖賢と  
 靈のなり物よ此はさくはる海

びより驚ろけりて公の鬼と尸なりハ  
 たりとや程由儒家の流に史地獄史  
 りあつた竺の流に科人あまハ地と墮りて  
 居まるとく是とをく誠名付て比ごと  
 りふと刑符の流よ古とぬと細少く比ごと  
 まく此怖まおとてありとて又和又聖刑鬼  
 たりとあつた竺此國の名けくそ此中國  
 と云事をけせば人備とらるの事せれう  
 りしと多々の形ありとありとく生る人  
 に馳る事なり誠海結の久ああやまの

て地獄極系の流及鬼と尸名とえとりとも  
 ありまると立馬帽子酒典を子なるとわながら  
 人と根よりにもあつたさうくけととおのまが  
 勇力と程と王法佛法にそむくと無誠長  
 たり誠がく云なるとありやる物のともり  
 俊寛のながとせし鬼が鳴かるとるをたぐ  
 家國の風俗は程として物の教誠あつたり  
 夷とりよなりしとて赤海はほるとはく二  
 條のさつたと一はよらむる鬼ハ地河の天ト  
 必死大物ととや鬼の目とつとつと

かく強しと云ふもゆさびつと云ふは  
 にはと云ふと名なりぞし強縮と云ふは  
 の鬼を相と云ふ踏河のぬしと云ふ事  
 鬼野を鬼百合と云ふはぬしと云ふ事  
 ありと云ふ

才に 西鬼は物種をわし 陰火湯火に  
 一人は云々此物より何事ゆゆおふひのひ  
 事のと云ふは是れと云ふ事ゆゆ  
 らん素ちと云ふは月此は行の是れありて  
 少の世しけしハ一宿と云ふはひけしと云ふ事



ぬ形がわりのてもどりの侍りしは目も眼も  
て人れ海とほし冷く男よ交れさこのは  
とりはく教さり紙毎りしうがはけうなる  
丈本より何うの初らぬ大れ丸の形鞠のお  
と紙物わりつこのぼり山んえけきハあき  
いふとんを交れさくおと花り紙  
紙造と出く迎毎りづ肌よあき  
心づくぬ観音れちり紙くけ居りゆれ  
けくがなくゆりゆりい怖あけくゆくと  
を先並荒おと菊よてそきハ信よいる

けえおれしと云むり物なりされたる地  
君一交り法陽みゆの理にりく事ほし  
まばそ光り物大木れ轉はく良本生火  
此理なりさて登と致すはもみえは  
ゆりハ火ハく地とゆく交と悔的うなる  
わひくむりりしなふ事此事なり就中  
本れ下れ暗さあよわりの進見ゆりなるし  
さきととも本に生さるハ何をやき法  
陽のさ変みゆの相生ハ四季れ梅りかん  
はぐあしとまきとて交れはみりてあ

がおとししこ始の氣と盡さぬららるつぎの  
 氣は生ぜしこ進バ寸本尺樹と本生火は  
 及理よりなりなごう程いさご本は氣は満の  
 火は氣は生るよ及ぶらなる也し又  
 天地の界ふ火は教つあり星精の飛火  
 誘る火雷は火とて火とふ本は火より石と  
 となりて契る紙地火とふ人間にとりて心  
 の火命門の火紙人火といふも火は  
 陰火陽火はこらあり陽火を物紙  
 燒も陰火は物と燒しはしそも又雷火を

この適人紙燒よりあるといふ陰火なり也  
 へにあるとし當し濡らる紙りそはゆふとたを  
 却て燃ひ火紙なげ灰紙候しあせげんを  
 まく消え侍る是及理のをさやうなりまを  
 及しけははるしとる也も陰火なりそ  
 紙ありなごう紙よえゆりかたし又火く  
 けるごわし陰火なる物紙候に及ぶる  
 事さもありぬし紙の深山幽谷なごふ  
 てそ本は枝りみあひく火紙生れそその  
 本は燒るりまめや云うごうの湯の用

志川まりの法の用なまのま本此りこわひ  
侍りけく陽北まご試なりて湯火と磨じ  
ふ心なりやう地

才又 志海并 彭侯と云歎付 狄仁傑の  
つ人れ云こ海と尸物ハ山若あつひハ堂塔を  
ごにく人の夢に無く等く物と尸をり  
こまハ文字に志堂若言と申て志海とよ  
めり又樹神と申ハいうこ由にも化物の類  
よこハ本此精おもゆ感ん結くハ芭蕉の  
女にけくならなごこそ志海も尸へん

やとまん先生研くいんくいふも作ら海  
おく物のせりく志海と申り和  
まのいも少志れこまの海くな也後ろ志  
ハよまこれ何物もなまこ山若かりあまく夢  
とわごまハまじふにわつ物よあかりて心く  
志なり是男生類に何れ志若言れ心  
なりし係草木に精るまこりふれハあつ  
又草木此精もと志海と申し唐志あまも  
彭侯といふ歎ハ子家紙強一本此申よあり  
て状物の志しこまりむし志此教叙と云

世に人たなり樟樹はまじりしは木此中より魚  
なり進出あやしこん進ハ中に黙居しが勢候  
あんとそ煮くくしに味ハ物のぶじ  
とあまの搜神記はんこり是くぐらに樹  
神なるよし又唐此武と思とらふ人の許は  
いづくたなく唇紅くはしき女身として  
はうとんと云武と思とらふ女身として  
ひしよゆくあうとひ舞まひく聖系去登  
にうらやしの思寝をなめなるはく賓  
客れとむよ馳走に別ありそは秋仁傑

とらふは及進為備の人なりしが柳のりや  
て武と思涙あふむはひしよと思奔急のこ  
めよ彼女紙呼出せしが女りくたあく  
うせぬあやしみにく来けしハ響のんをぬにむ  
らぬのましくに如くうま進ぬくまやう  
人前にあはれ進あはれ牡丹の精なり君あま  
まに牡丹を愛しあふれ人あはれ愛し系を  
ほふまうりしが秋仁傑もそ進養印と人  
なまハ世まうりあみらるくぐくのおとしせ  
らく進ら世しと開天遺事に見えあり又



芭蕉の女にむけて書きたる此の得張はしりし事  
 幽冥録より見たり徳もかたし此お雨もや侍人  
 才六 見り入る事并和歌の介をさる事  
 一人此のくさりの川に大氣の條城のわたりに  
 いはれや介をさるとやいふ名もまたく介をさ  
 りもまた門あつて夜叩けはる肉より驚き  
 てあけぬとて物を良肉へ入るとむしる人  
 なしと油づくれ氣つち介をさる音もまた  
 生よりて云々歌ゆふに月をさる  
 是物ゆふにさるく此過はくみさるわりの



なり跡を及りわねひ事し御もそや  
 と思く進け進けのよく急は進けけけ  
 門ははく見しなひぬをかくのぼしこ  
 云け進ば歩人皆驚て相くあやうとあ  
 うれ進をえんぼし入道にくんとて香  
 燭をひしてたりひのゆちりて事はくそ  
 入道に進人唯今もそとくと云ハ一屋  
 の人何進に怖事事ととん先生解  
 ていそくひまのびしより一名と高坊先  
 のひあふたり登原墓原なともあは

只在泉北口過彩の下北石橋なるの急より  
 出るとあり是悪なり人に狂病風のあき  
 深てもとくありける相なよ氣のあより  
 生ひるまは彩がしなるよしをれまけま  
 あよりも事あるに振らりとせまらば  
 見えぬと云ん口門戸のお入あるを相  
 此れ此むより母星のげ相ゆるなるにま  
 彩法師せのまぐらみやくそとと思ひ  
 氣をじしなわとみるより坊主とあつた  
 あり彩づしなまはる相とごうなぬ

介さるもい顔はく侍らしもの家にしあへも  
月中におのまご彩とれをまらしく迎らる者  
わうと漆園を人もうまじとらや

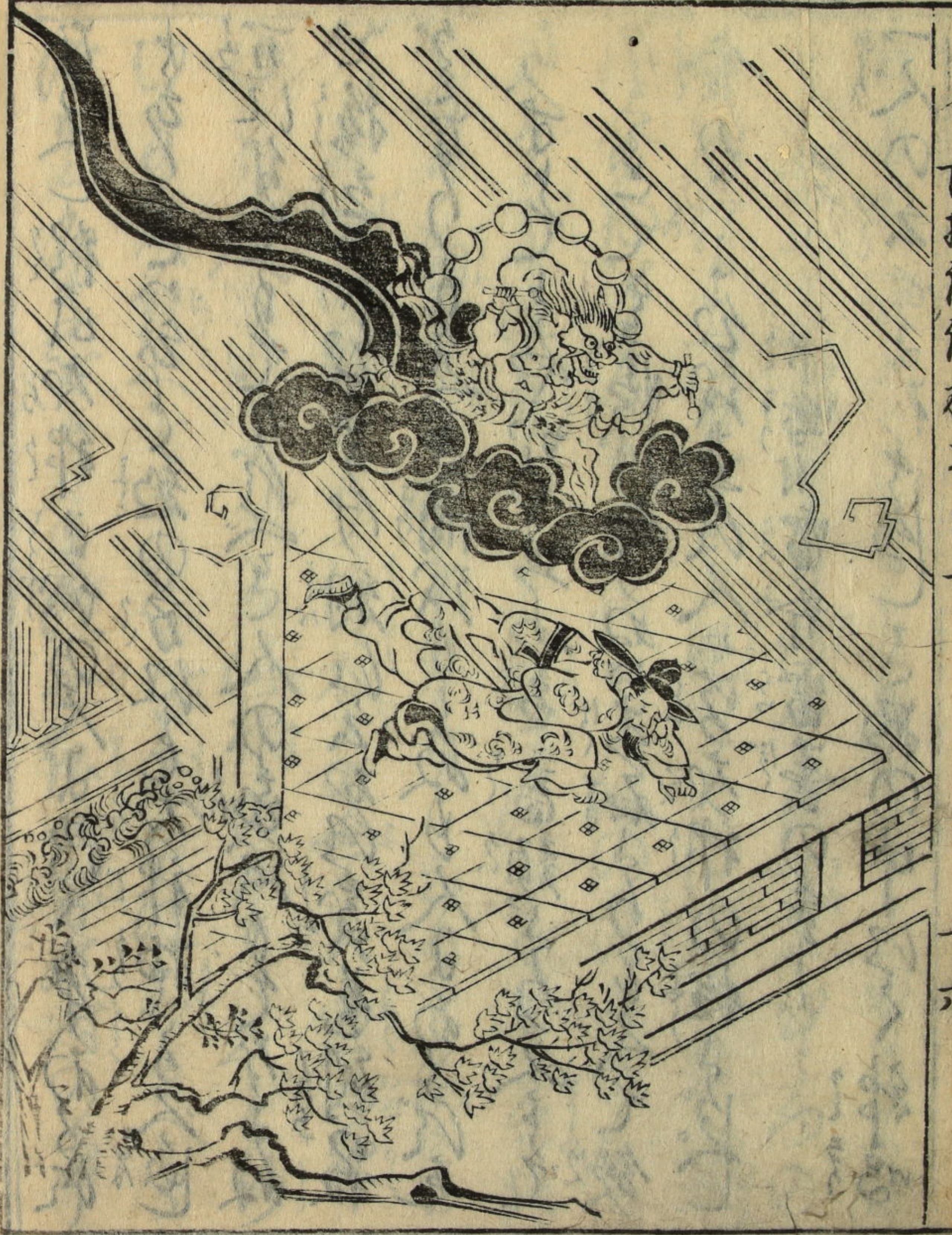
才七 大神田西よあるもの

先生よりて云は國に大神とふ地ありけ  
大神とあま受給しけり人と大神持と云て  
この世あもゆのわらなりたとりぐい大神  
物交進なごのまへけりけりおらるこれ  
及れ家よみ食取酒など侍り候る事  
ありても物よま給らるりもとかく公のり

侍り候はるま交りあへん無の形とほして  
ぞら事れを彼見し飲食の事などいひ  
罷まり候るまに病えれ人彼大神物  
とら人よかくと云あらるり又い候ん侍  
候りひわらるりも候さ けさべ現山伏  
など候く彼へとせらり時を病い候るとや  
ありう候らるりなればも大神持の家  
といましくまごあり婿婿なやらる候ふ  
事ほしそあもとごの事候とくあさ  
とそ出しめもとる祖より侍り来まら候

律なれはせんういなく身とらうとつがしめり  
 とやまほとまり物より紙すハせらつもの  
 な紙種よつらむとつ繩とせしゆりて置  
 れ合物よりとつなれ口と紀の尻とぐんと  
 まうとつに垂くう人教しとくとも是紙  
 まうり物くなら事なりとありと紙に  
 の盡毒の類がり併今の世よハ道な律  
 物ら人もいふありつ律のことく人と紙  
 けの紙類くもましくと交かた志をへう  
 此是名まともいられ今世男此討の事

けりし律は女律と紙の人よけく事わらに  
 とありさへとと教の方にと女律物ら人海  
 可に付てりそなる人との紙りそなるぬ  
 と後をくむよけ紙は云おはまは是別ぬ  
 がとなりものうと酒紙りぬも人よあはれを  
 らずとそとやかく男あま畜類とら又とそ  
 なることと情紙知ぬの本おらりて入て飲  
 食のふよ紙紙お人ハけな律の性とらと  
 才八 律鳴付雷奔雷雲の事  
 人の云世なれをかしと物の中はく律鳴



程なりいほし何よりいふべきと大足宗なる生頼  
 此のうぶるかとわりのハ形あるん似りいりさ海  
 ありあなる理のゆらん形もやと云先生  
 の云雷れ中流ハ周易に居るより唐公孫  
 多く流より雷列といふありてハ二月の始  
 流るよこより内し神唱もの耳して出珠よ  
 ばし流記より國史補よハる物語のこじは  
 新りか録これ流海しと云西流よ此の祥  
 以性理大全に宋豹の儒志の編を載り  
 是くのより侍と云史雷ハ陰陽ねるより考

たり驚きやるはものきより出根よ悔るまま  
 も是より驚きやるなまきへて此のるにあへ  
 もけよべしはさへとまへしきへ天の怒り  
 なり計解よ孔子も迅雷にハ必形と慶し  
 乞努れを違ふせ終ふにわんて此怒れは  
 このなりなりなるに夷文と云ハ天此の陽氣  
 友ハ夫よわの時よ陰きと云ハ天此の陽氣  
 何のの氣氣のきく風風にいざなり  
 て彼をいなる陽氣此はありありとあり  
 陰陽ハ相克かなれば陽ハとて陰陽此

とるがてて此よむと云ふ言此をさうこ  
 うせりもあつとのふ陰の氣陽よあり時  
 是もあつたなり陰陽むとて時を  
 れつらにおよむ陰陽の氣陰に勝る此ハ  
 わるるあつたのひハ中此にさあり又ハ此よ  
 うなりそつらに積悪の家よあつて悪人  
 此災ハせりされど雷にむありてかくま  
 此ハわらざるもさしてはむむと  
 うる氣の感むるあなりあしはむむと  
 びし樊光と云し者此のむむなりて

此は流傳に承ふ事此より懸紙の  
ひく粉じくはく理のこの考紙を  
まゝめ程も去本れ責にありしめしうば  
まの考とにうまて家此に事と  
Pうけらりと仰りて飛紙何れよりて  
るのこの勝らりも及天倫よりと  
正雷電をよりけり終又樊光うへに  
流うりてそ紙紙けりじのひとこのやけ  
類わけてぞあべのうば又さなをこ人の  
はうくねうゆわりの是ハ

轉作九氣のうすさなり海し人卷一  
契湯けり雷紙れそそあにわうあ  
むるてれうゆ事なりと醫書にも見  
えり青太舞の徳紙にほと烈風  
雷面いゆよんぼと子紙にうま  
とくくえれうまざるも聖賢れ  
流あせし紙紙あをわりのさ  
ひもくは紙紙あ若紙そな  
ふみ泥危紙通し佛力紙あ  
まらりてまのあ物れびし延  
代

延也(えん)子(こ)中(ちゆう)に清涼(せいりやう)殿(てん)にいらはらゆつひて  
寂(じやく)系(けい)法(ぽう)貴(き)中(ちゆう)希(まれ)母(ぼ)其(その)外(ほか)殿(てん)上人(じやうじん)  
とりのゆつり身(み)満(まん)りりにたり世(よ)の人(ひと)尸(しかばね)なり  
じし侍(しやく)らハ管(くわん)舞(ま)相(さう)の清(せい)身(しん)此(こ)ままに  
也(や)う侍(しやく)れそりしまためいにうりも家(け)  
のや雷(らい)の音(ね)うそひ高(たか)なりし侍(しやく)まを束(さん)  
の大(だい)おほおまそちうあ海(うみ)夢(ゆめ)して清(せい)殿(てん)の縁(えん)  
むじしに條(じやう)し海(うみ)門(かど)張(は)ち後(ご)しお監(かん)するを  
以下(ぎやう)の官(くわん)人(にん)つらまも養(やしやう)うそはくも飯(いん)  
あなまは侍(しやく)れ成(なり)神(かみ)心(こころ)疎(そ)とりともやえれハ

そにそりまをより人(ひと)ハ皮(かわ)肉(にく)ハ換(か)せはく  
その骨(ほね)れとらうらうらうの雷(らい)ハとや法(ぽう)火(か)な  
まはをうらうらうの物(もの)成(なり)破(やぶ)らうあわさうは  
かうたそままうらうの理(り)なりともうらう入(い)る  
わら成(なり)るふ亮(りやう)も鬼(おに)形(かたち)の法(ぽう)めがら成(なり)  
事(こと)わられ侍(しやく)ていりま海(うみ)はと歎(なげ)きむく  
ままに系(けい)系(けい)法(ぽう)のつひなうらうまれとさ  
にわられ又(また)つ流(りやう)は法(ぽう)陽(やう)れなすまうらう  
とと又(また)神(かみ)ありてもあはれはまごりあり  
鬼神(きしん)幽(ゆう)微(び)のなまうらうはじかなと唐(たう)の

下(した)の巻(まき)の末(すえ)の

廿二(にじふに)

書に傳きしとて様子糸子の説よハ陰陽  
 の卯辰のうらねねよん又雷繼雷并雷  
 雲などりお物そあち方あらんまよしに  
 物のほしそをささか交わひ能あま  
 で本おに傳りめさとはよりめし控星  
 ねらて存となりあうひに雷ぞんを  
 わるくくいと保ちるまじくおのく戸  
 けるハハ説とけのりて少ねを海へ  
 海とあちおぬとめしし

百物伝抄卷之九

し



